

岡谷市議会 社会委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成24年10月16日（火）～18日（木）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）びわこ学園医療福祉センター野洲（滋賀県野洲市）
 - （2）近江八幡市立看護専門学校（滋賀県近江八幡市）
 - （3）大津市立やまびこ総合支援センター（滋賀県大津市）
3. 視察参加委員

委員長	田中	肇
副委員長	竹村	安弘
委員	小松	壮
委員	浜	幸平
委員	今井	秀実
委員	齋藤	美恵子

【視察先毎の報告】

1. 調査事項

びわこ学園医療福祉センター野洲（滋賀県野洲市）

（視察事項（概要））

びわこ学園の理念：「この子らを世の光に」

創設者：糸賀一雄先生提唱 障害の重い人達が市民として生きる社会を目指す。

- ・敷地面積 約36,200㎡ ・延床面積 約9,400㎡
- ・総事業費 約31億円
- ・一般病院形態をとる中で、医療型障害児入所施設・療養介護事業所であり、138床を有する病院だが病棟とは呼ばず、民家に見える外観で暮らす場として住棟と呼ぶ。医療介護別に3棟で療育。生活の場であるという理念を形にした平屋のコテージ風。入所者は5～79歳で平均46.8歳。
- ・在所期間は1～46年。138人が入所。常勤医師6名の他、各種の専門職員配置。滋賀県立医科大学と連携している。

2. 視察日時 平成24年10月16日（火） 13:00～15:00

3. 参加者所感

- 岡谷市に類似の施設は未だ存在せず。信濃医療福祉センターがほぼ同様だが児童に限定されており、養護学校卒業後の障害者療育、広範囲な年齢の施設の必要性を感じる。
- 地方であっても重度障害者と家族が安心して高度な療育を受ける事が出来る施設が存在することに感動と同時に希望と責任を痛感した。
- 障害者福祉整備の充実について、なお一層真剣に考えてゆく必要がある。
- 障害児をバスで送迎する際に看護師が付いて通院できるようにとの提案をいただいた。（家族が付き添わなくても良くなる・・・負担が軽くなる。）
- 創設者糸賀先生の理念のもとに長い歴史を感じた。
- 同様の施設が草津市にも展開しているが、国内においては同様の形態での展開は少ない。内容の濃い視察が出来た。
- 今後の社会福祉の在り方として一石を投ずるものとする。
- 医療の提供が日常的に必要な重度の身体障害者・知的障害者・障害児が病院に入院という形を取りながら、スタッフに支えられて日常生活を過ごせる良い施設。
- 施設の中に養護学校の分室があり、重度の障害児にとって良い環境。
- 障害者に対する福祉の心がこの様な施設に結晶している。
- 岡谷市では障害者の現状と課題を明確にすることが必要であり出発点だと思う。
- 病院としての位置づけで教育の機能をもつ重症心身障害児施設が近隣にある

ため、障害児に対し、普通のこととして受け入れられる環境が作れると思われる。

【視察先毎の報告】

1. 調査事項

近江八幡市立看護専門学校（滋賀県近江八幡市）

（視察事項（概要））

（1）講師の確保について

- ・医師26名（非常勤含む）、看護師22名、その他職員28名、計76名で運営。
- ・講師の確保は病院長に依頼。辞める場合は次の講師を紹介してゆく事例が多い。基礎分野の講師は、大学院課程の学生に依頼している。

（2）学生の状況

3学年合計121名（市内20％・県内66％・県外14％）

男女比：約22％が男性、約78％が女性（最近は男性増加傾向）

就職率：50％強で定着率は100％

○教育理念

人間尊重を基盤とし、豊かな人間性・創造性のある看護者を育成。

教育目的・教育目標を定める。

○昭和49年 市立高等看護学院2年課程開校。

○平成元年 市立看護専門学校3年課程開校。

○精神看護学を在宅看護論の中核におくなど、心理学関係科目を多く配置し特徴ある教育を推進。

○実習施設は、市立総合医療センター、ボォーリズ記念病院他。

○40人の定員に対し、200人以上が応募。応募者の半数は社会人。

○就職先は、市内3病院。県内6病院他。県外5病院他

○進学先は、滋賀県立大学・京都府立医科大学・岐阜県立衛生専門学校他

2. 視察日時 平成24年10月17日（水）9：00～11：00

3. 参加者所感

○奨学金の優遇もあり、卒業生の半数以上が市立総合医療センターへ就職している。就職後の定着率100％で市立看護学校設立効果は歴然。岡谷市でも期待される。

○岡谷市の学校運営には、県の手厚い補助を求め実現できれば負担は大きくない。

○講師の確保は最重要課題。信大、大学院との良好な関係構築が必要で、その他、近隣大学・短期大学との連携も必要と感じた。

○施設は想像以上に多くのものが必要。留年者用スペース・機材配備等当初から準備。

○看護師不足軽減の大きな力となる事業と確信した。

- 社会人経験者の入学増加は、ホームヘルパー希望や男性看護師採用病院の増加等によると知ったが、平成24年度より入学試験に英語が加わり社会人経験者合格者が激変したとのこと。新卒者と同じような試験内容では気の毒だと思う。
- 生徒の為のカウンセラー室が設置されていて驚いた。現代人には必要か。
- 岡谷市に看護専門学校が出来ることは、市内の病院の看護師確保や市内経済の活性化に大きく貢献されるものと期待する。
- 平成9年の法改正で設置基準の見直しがあり、学年制から単位制への移行で留年生の発生が起きている。
- 運営について、一般会計からの負担はあるものの、自前の看護専門学校を持っている強みが出ていると考える。
- 岡谷市も看護専門学校設置の方向が打ち出されている。今後とも支援していきたい。
- 設立当初から、訪問看護の実習室を設けるなど、施設面でも配慮がされ、後の指導要領改訂に伴うカリキュラムの編成や施設要件を満たすことが出来たとのことであり、先見の明があったと感心した。
- 指導要領の今後の動向にも留意して施設整備を行っていくことの重要性を感じた。岡谷市でも生かすべきである。
- 講師の確保は、近隣も含め大学等の多い近江八幡市と岡谷市とでは条件が異なるので、開校前の早めの対応が一層重要と思われる。
- 看護学校設立を控えているので、この視察は大変参考になりタイムリーだった。
- 入学金を近江八幡市在住者に限り半額免除しているが岡谷市も実施すべきと思う。
- 奨学金を充実すべきと思う。市内の病院に就職した場合は学費の減免も必要ではないかと思う。

【視察先毎の報告】

1. 調査事項

大津市立やまびこ総合支援センター（滋賀県大津市）

（視察事項（概要））

（1）びわこ学園との関係について

- ・センターの一部管理運営業務を委託。
- ・建物は大津市。施設に付属する備品・器具・機械等の管理はびわこ学園。

（2）総合支援センター設立の経緯について

- ① 障害の早期発見、早期療育を柱に大津方式による乳幼児健診。（受診漏れを無くす、発見漏れを無くす、対応漏れを無くすという3本柱）
- ② 乳幼児健診と障害乳幼児の療育・障害保育の連携を図ったが、障害の重度化・障害の早期把握等に伴い、療育の一層の充実と受け入れ定員の増加が求められた。
- ③ 18歳以上の知的障害者は養護学校卒業後、就労や職員訓練・生活訓練の場が少なく、進路決定の困難があること。
- ④ 重度障害者と家族への在宅生活支援が緊急の課題。

（3）利用者について

関連東部、北部を除き、年間 約26,300人

年齢構成：やまびこ園・教室 1～5歳児 小計56人

：さくらはうす 10～60歳代 66人（開所時からいる高齢者が半数以上。10代が定員一杯で入れない）

利用料：児童福祉法、障害者自立支援法に定める額その他、通所施設管理運営に関する規則。（入浴・夜間一時保護・食事又は間食等費用）

（4）職員について

合計109人（市職員47人、びわこ学園職員59人）

○平成12年4月1日開設

・敷地 約6,700㎡ ・延床面積 約4,377㎡

・構造 鉄筋コンクリート4階建

・総事業費 約27億円（用地取得費6億8千万円含む。）

○1階 児童発達支援センター「やまびこ園・教室」＝障害乳幼児の通園療育施設。（市直営）定員40名

○2階 多機能型事業施設「ひまわりはうす」＝自立訓練、生活介護を中心とした通所施設。（びわこ学園に業務委託）定員20名

○3階 生活支援センター＝相談支援、ホームヘルプ、ナイトケア（同上業務委託）

○3・4階 生活介護事業施設「さくらはうす」＝重度障害者を中心とした通所施設（同上業務委託）定員60名

2. 視察日時 平成24年10月17日（水）13:00～15:00

3. 参加者所感

- 利用者1歳児～60歳代までと幅広く受け入れられ、看護師の常勤、酸素吸入設備、各種リフター、温水プール、粘土室等充実した環境で知的障害児者の支援がなされていることに感心した。
- 岡谷市にも規模は小さくても市が直接関与するこのような施設を近い将来作るべきと考える。
- NPO、あるいは障害者家族の自助努力が第一との考えは再考の必要がある。
- 滋賀県の各自治体には、「この子らを世の光に」との、障害者に対する思いと、障害者福祉への誇りが存在することを随所で感じた。岡谷市もそうあらねばならないと強く覚悟させられた施設でもあった。
- 今回の視察で滋賀県は、大変に障害者の支援体制に力を入れていることが理解できた。
- 岡谷市や近隣市町村の現状について把握し、対策を考えていかねばならない。
- 別機能の施設を複合化することで、理学療法室の有効利用や調理室の効率的な運用、さらには、医師をはじめとする専門職員の兼任配置が出来ることにより、きめ細かなサービスが提供できる可能性が高くなるなどメリットを生かした管理運営がなされている事が良く分かった。
- 児童発達支援センター「やまびこ学園・教室」は、発達を保障する通園施設で大変価値ある施設と感じた。
- 障害者の生活介護事業施設「さくらはうす」は、18歳以上の障害者が通所する施設であり、養護学校卒業後の居場所が確保できないという問題を、大津市ではこの様な形で解決しており大変立派だと感じた。
- 30万人を超える県都だから出来るのかもしれないが、そこを貫く福祉の精神を痛感した。
- 岡谷のまゆみ園保育士が2名というのは、利用者の人数から言っても少なすぎる。
- 希望の里つばさ、エコファおかやなどの現状を良く掴み、岡谷市として障害者福祉の充実のために必要な課題の洗い出しがまず必要。
- 福祉への強い思いがなければできない事業と思う。
- 18歳以上の知的障害者に対する施策は、喫緊の課題と思われる。